

2020年東京オリンピック・パラリンピック会場計画の再検討の状況について

1 再検討の視点

○東京にどのようなレガシーを残せるか ○都民生活への影響 ○整備費高騰の懸念への対応 の3つの視点から再検討を実施

2 都が新設予定の施設の検討結果

	会場名	実施予定競技		再検討の着眼点	今後の方向性	
		オリンピック	パラリンピック			
1	オリンピック アクアティクスセンター	水泳	水泳	大会時2万人収容の会場を大会後に適正規模の5千人に縮小する工法や大会後の利用について、基本設計を通じて検討	新設	現計画どおり整備 (大会後観客席を縮小)
2	海の森水上競技場	ボート カヌー (スプリント)	ボート カヌー	立候補ファイルからの会場レイアウトの変更等、整備費圧縮の方策や大会後の利用について、基本設計を通じて検討	新設	整備規模を縮小し、現計画地で整備 引き続き更なる整備費の圧縮に努力
3	有明アリーナ	バレーボール	シッティングバレー ボール	複数の室内競技が実施可能など、大会後に想定される利用方法等を踏まえた具体的な施設構造等を、基本設計を通じて検討	新設	現計画どおり整備
4	夢の島ユース・プラザ・ アリーナA	バドミントン	車椅子バスケットボール 車いすフェンシング	有明アリーナを含めた3つの施設の競合により、負の遺産となることを回避 現ユースプラザ(東京スポーツ文化館)利用者への配慮	既存施設 の活用	新設中止 ※代替会場は調整中
5	夢の島ユース・プラザ・ アリーナB	バスケットボール	車椅子バスケットボール			
6	若洲オリンピック マリーナ	セーリング	セーリング	新設予定の防波堤などに係る整備費の増を極力抑制しつつ、セーリングのレガシーとなる施設を整備 ※競技海域(航空管制上の課題)については別途検討	既存施設 の活用 (改修)	新設中止 ※既存の若洲ヨット訓練所を拡張
7	葛西臨海公園	カヌー (スラローム)	-	公園整備の歴史的背景、公園の緑等自然環境に配慮し、広く都民にも利用される施設として整備	新設	隣接する公有地を活用して整備
8	大井ホッケー競技場	ホッケー	視覚障害者5人制 サッカー 脳性麻痺者7人制 サッカー	現存する野球場利用者への影響を極力抑制しつつ、ホッケー等の拠点として整備	新設	現計画地で整備 都民生活への影響等について、引き 続き検討
9	夢の島公園	アーチェリー	アーチェリー	公園の緑や利用者に配慮しつつ、アーチェリーの拠点として整備	新設	現計画地で整備 都民生活への影響等について、引き 続き検討
10	武蔵野の森 総合スポーツ施設	近代五種 (フェンシング)	-	既に着工しており、多摩地域のスポーツの拠点として着実に整備	新設	計画どおり建設中

3 再検討の成果

史上最高の大会を開催し、都民にとって真に価値のあるオリンピック・レガシーを残す計画へ

- ①既存施設の活用により新設会場数を絞り込むことで、実効性ある後利用計画が可能
- ②環境に配慮し、都民に親しまれる施設を整備
- ③財政的にもコンパクトな施設計画
- ④選手第一の視点にも最大限配慮

都が整備する施設のコンセプト(具体的な後利用計画等は、今後、詳細に検討)

- 区部臨海部と多摩地域の各々に、新たなスポーツ拠点となるアリーナを整備
- ボート、カヌー、セーリング、ホッケー、アーチェリーなど屋外スポーツの会場を整備し、都民に様々なスポーツに触れる機会を提供
- 水泳競技の新たな拠点となる会場を辰巳に整備

(1)有明アリーナ

ー2020年大会のため区部臨海部に新設する唯一の体育館(アリーナ)型施設として、国際スポーツ大会やイベントにも活用される新たな拠点となる

(2)オリンピックアクアティクスセンター

ー後利用の観点から大会時2万席を大会後5千席に縮小し、都民利用から国際大会開催まで幅広く利用可能な水泳場とする(ロンドン水泳会場を参考)

(3)海の森水上競技場

ー国際大会開催可能なボート、カヌー場であるとともに、海の森公園と連携した都民のレクリエーションの場、憩いの場となる

ー都民の新たなスポーツ体験の場、環境関連施設等と連携した青少年の教育の場など、多目的に活用する

(4)セーリング会場

ー既存の若洲ヨット訓練所を国際大会開催可能な施設に拡張し、都民利用、選手の発掘から強化までをトータルで担う拠点とする

(5)カヌー・スラローム会場

ーカヌー・スラローム競技施設であるとともに、公園機能と一体となったレジャー・レクリエーション施設としても活用する

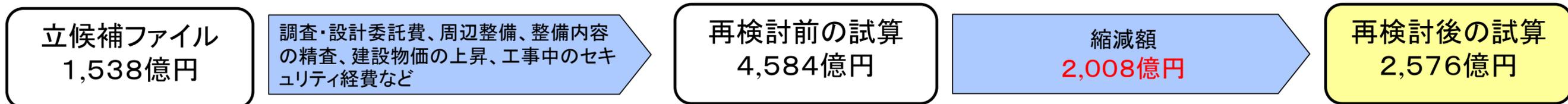
(ロンドン(リーバレー)カヌー・スラローム会場を参考)

(6)武蔵野の森総合スポーツ施設

ー陸上競技場、体育館、水泳場を備えた多摩地域のスポーツの新たな拠点となる

(7)その他、ホッケー場、アーチェリー場など、屋外スポーツの新たな拠点を整備

4 施設整備費(恒設分)の検討経緯と現時点の見込み(平成26年11月現在)



(単位:億円)

会場名	立候補ファイル	調査・設計委託費、周辺整備、整備内容の精査、建設物価の上昇、工事中のセキュリティ経費など	再検討前の試算	縮減額	再検討後の試算
オリンピックアクアティクスセンター	321	+362	683	—	683
海の森水上競技場	69	+969	1,038	△547	491
有明アリーナ	176	+228	404	—	404
夢の島ユース・プラザ・アリーナ A・B	364	+516	880	△880	0
若洲オリンピックマリーナ	92	+322	414	△307	107
葛西臨海公園	24	+49	73	—	73
大井ホッケー競技場	25	+23	48	—	48
夢の島公園	14	+10	24	—	24
武蔵野の森総合スポーツ施設※1	250	+101	351	—	351
有明テニスの森※2	59	+85	144	—	144
IBC/MPC(東京ビッグサイト)※2	144	+84	228	—	228
運河横断デッキ等※3	0	+297	297	△274	23
合計	※4 1,538	+3,046	4,584	△2,008	2,576

※1 武蔵野の森総合スポーツ施設メインアリーナは既に契約済みであるが、現時点の契約には将来見込まれる工事中のセキュリティ対策などは含まれていない

※2 有明テニスの森、IBC/MPC(東京ビッグサイト)は都が改修を行う既存施設。ビッグサイトは立候補ファイルで想定した増築規模に基づき試算

※3 新木場駅～夢の島、夢の島～辰巳接続デッキなど立候補ファイル時に示した周辺整備を一部取り止め

※4 IOCの基準により、本体工事費のみを計上